

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和7年2月19日(水) 15:00~16:30

場所 大阪府立清水谷高等学校 校長室

出席者

協議会委員	柴 浩司 様	出席
	須藤 隆二 様	出席
	西田 清盛 様	欠席
	近藤 清子 様	出席
	野原 久美 様	出席
	大野 広 様	出席
校長	日笠 賢	出席
事務局	林 拓磨	出席
	太居 豊	出席
	納江 良子	出席
	高田 雄	出席
	網 真明	出席

1. 学校の状況報告

校長より報告。本日が今年度最後の授業であったが、欠席者も比較的少なく、元気に授業を受けていた。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染者も落ち着いており、何とか明日からの学年末考査迎えられそうだ。3年生も一般入試の結果が返ってきており、近畿大学を受けた生徒からは厳しい結果が返ってきているが、国公立大学の受験を考えている生徒はA判定の生徒もおり、大いに期待している。

今年度から採択されたDXハイスクールでは整備が整ってきており、会議室がアクティブラーニング等を実施しやすい用に什器(机やイス)の入れ替えが行われたり、小学生対象のDXハイスクール体験プログラムが企画されたりなど、順調に進んでいる。また、今年度に引き続き来年度も8クラス募集になるため、授業教室の整備を検討しており、家庭科総合実習室を普通教室に改築し、第2LAN教室を家庭科総合実習室にするなどの整備を実施予定である。

2. 令和6年度 学校教育自己診断 集計結果

事務局高田より報告。学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員の3団体にそれぞれ学校に関する質問を実施し、その内容をもとに議論を行い、業務の改善や進捗の確認を行うものである。清水谷高校の診断結果は毎年高い値で推移しており、肯定的な回答が90%を超えている項目も非常に多い。今年度も同様に高い数値であり、特に3団体とも設問の1にある設問【清水谷高校は生徒にとって入学してよかったと思える学校である】では、昨年93%に対して、今年度は95%に達した。理由については様々な取り組みが考えられるものの、今回の自己診断の数値から読み取れるものでいえば、ICT環境の整備があげられる。本校は一昨年よりリーディングGIGAハイスクールに、今年度よりDXハイスクールに採択され、ICT環境の整備が一気に広がった。その整備と同時に教職員のICTスキルも大きくアップし、授業における1人1台端末の活用率が大きく上がった。【ICT機器を効果的に活用している】という設問では生徒が93%、教職員が100%の肯定的な回答がそれぞれあった。これらの数値はおおむねアッパーに達しているため、今後も上昇させていくことは難しいと考え、維持していくことに努めなければならない。

3. 令和6年度 学校経営計画及び学校評価（案）

校長より報告。作成にあたり、学校教育自己診断を参考に作成した。生徒の回答は25項目中24項目が前年度の肯定的な回答率を上回っている。中には98%のものあり、来年度の上昇が難しいため、維持することが課題である。授業や部活動に関しても満足度が高い。毎年学校教育自己診断をもとに将来構想委員会で議論を行っており、細かな不満も解消されつつある。新型コロナウイルスによる制限が解除され、体育祭や文化祭などに制約がなくなり、壱月祭が校外の大ホールで開催でき、海外語学研修として昨年度のオーストラリアに続き今年度はニュージーランドへ行くことができたことも大きい。唯一昨年を下回った設問【学校外の方たちと交流する機会を設けている】については、学校教育自己診断の実施時期が悪かったことも要因である。定期考査直後であり、今年度の外部との交流はそれ以降にさかんに行われたため、このような結果だった可能性がある。保護者の満足度も高いが、一方で教職員の肯定率が低い。そもそも教職員数に対して50%の回答率にとどまっており、積極的に回答する教職員はどちらかといえば否定的な回答多い。教員間の連携も課題である。また、年2回実施している授業アンケートについて、7月に実施した第1回のアンケートでは学校全体の平均点は昨年の3.47から3.54に上昇した。12月に実施した第2回では3.56とさらに上昇した。一方で生徒は見るところはシビアにみており、2点台の教員もいる。授業ではICTの活用が多く見られた。学校教育自己診断でもICTの活用についての設問への肯定的回答が93%となり、ICT化が大きく進んできた。1人1台端末の活用も昨年度79%から、92%と素晴らしい伸びをしている。職員室では、教員同士がお互い勉強しながら使用している様子が見られる。

非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現に関する設問の肯定率は96%と大きく伸びた。いじめに関する設問は96%の肯定率、部活動に関する設問も98%の肯定率とどちらも高水準であった。キャリア教育の充実と希望の進路の実現に関する設問では、95%の肯定率であり、目標を上回った。多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくりとして、講演等は5回実施することができた。交流機会のアンケートは先に述べた理由で下がってしまった。校長ブログの記事は昨年の1.3倍の730件(365×2)掲載することができた。

力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進として、担任団の連携強化のため、職員室の配置換えと電話の設置を行った。教員のカウンセリングマインドは上回っている。一方で、教員の1人当たりの超過時間数は昨年より増えてしまった。

質問

須藤委員【77期3年生の様子はどうか。】

3年生は受験の真ただ中で、図書館で自習をしている生徒も多い。学年主任が強いリーダーシップで引っ張ってくれていたり、生徒間での励ましあいがあったり、雰囲気もよい。入学した段階での生徒の学力は厳しかった。入学時は近隣の学校と比較すると低かったが、3年生になると逆転し上位層が大きく伸びていた。本校が伸びただけではなく、近隣の学校が伸び切らなかった可能性もある。学年の雰囲気が良いといい影響があるのかもしれない。

感想

野原委員【3年生は雰囲気がよく、みんな仲が良かったように思う。一緒に勉強する子もいて、毎日学校で勉強していた。みんなで頑張ろうという雰囲気があった】

近藤委員【入学式に校長室に遊びにおいでと校長が新生児に言っていたことがすごくよかった。中学生の保護者へ校長ブログをすすめている。少し気になったのが、生徒も保護者も通わせてよかったというところに評価が高いのに、教員間の意思疎通が図れていないというところが驚きである。】

意見

大野委員【生徒の項目について、以前から高水準であるため、今後あげるのは大変そうである。維持を目指す

してほしい】【確かな学力の定着と学びの深化の項目ウについて△とされているが、取り組みの計画にある新カリキュラムの見直しなどは行われており、また、学校教育自己診断の生徒の肯定率がいいため○ではないかと思う】【学校教育自己診断について、PTA 活動が活発に行われているという項目の肯定率が低いが、活発に行わなければならないのか疑問である。各委員を廃止したため下がるのは当然であり、役員や PTA 会員として活発に行うことは求めている】

柴委員長【教職員の回答率が芳しくない理由はなぜか。一般的にこういったアンケートは紙ベースのほうが回答率がよくなる。また、数値がアッパーなので、自由記述欄をここで確認したい】【GIGA スクールや DX ハイスクール、また、Chromebook が整備されてきた今、学ぶ意欲が高まっていかないといけない。そのためには学力の上がり方を検証しなければならないと考える】【探究の時間について、教え込まずに一緒に学ぶ姿勢が必要である。探究については、教科としてきちんとやる学校と、今まで通り薄くやる学校と別れてきている。清水谷は探究をもう少し頑張ってはと思う】【府立高校全体として、働き方改革の揺り戻しが来ており、多くの学校で勤務時間が増えていると聞いている】

4. 令和7年度 学校経営計画及び学校評価（案）

府立学校の指示事項に従って内容を書き換えているが、大きくは例年とは変えていない。数値目標については、〇〇%を超えるという記載から維持するに変更している。多くの項目については高止まりしているためである。教育庁より校則について指標を示せとのことなので、更新履歴を記載することとした。また、海外との姉妹校を作るようにと言われているが、現在どうするか検討中である。可能なら次年度に訪問を計画中のオーストラリアの私立の学校と提携できないかと考えている。

意見

大野委員【非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現に関する記載について、自治会や部活動だけではなく、授業などでも非認知能力の育成はされているため、訂正してほしい。授業や行事、部活動などあらゆる学校活動を通じてと記載してはどうか。これにより、学校全体で共通認識を持つことができると考える。】

柴委員【校則の見直しについての評価指標は、「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率などにしてはどうか。】

5. その他（令和7年度採択教科用図書）

協議会委員の方々に各自ご確認いただいた。